

[27_02]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1470247>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 27 (2), 1994-03-15. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：

編集後記

年度末を控え公私共に慌ただしい毎日です。本センターもK I T E稼働に向けての最終作業が続いています。

何事も準備から始まりピークに達しそして何時の日か終焉を迎える。今日は冬季オリンピックスキー男子複合で初めて日の丸が空高く翻ったニュースでもちきりです。学内は受験生がいっぱい。共に今がピーク!! 喜び溢れる笑顔にしろ緊張感漲る表情にしろ、とてもすばらしくて、人々に強烈に訴えるものがありますが、終焉を迎える姿にも言葉では言い尽くせないものがあります。癌で闘病していた父が1月に84年の人生を終えました。身近な人の死は人生というものを本当に真剣に考えさせてくれますね。私自身がもう人生のピークを越え終焉に向けて歩き始めているからかもしれませんが。これから年度末、年度初めにかけて出逢いあり、別れあり、感激の涙あり、後悔の涙あり、歓喜の笑顔あり。人生悲喜交々。幾つになってもその時々思いっきり感動を味わえる新鮮な心だけは持ち続けたいと思います。

(本当は人生まだまだ上り坂!とと思っている S. A)

暖冬から一転寒さの続いた冬もようやく春を迎えようとしています。九州大学の学内LANであるK I T Eも一期工事を終え、二期工事も今年度中には終了し完成する予定です。各大学でも学内LANの整備が進み、地域ネットワーク活動、幹線の整備によって、本格的なネットワーク時代の到来となりました。

九州大学大型計算機センターは今年で開設25周年を迎えます。25年前といえば日本は高度成長時代のまっただ中、今や高級住宅地(?)となってしまった自宅の回りは田圃だらけで、この季節には空を見上げて揚雲雀を追っていたものです。そういえばいつの間にか雲雀の声を聞かなくなってしまったなあ。

10年前には常識だった集中型コンピュータシステムをネットワークで結ぶ形態は、パソコン、ワークステーションの普及とネットワークの整備で、分散環境へと変化しています。大型計算機センターの設立から四半世紀、今センターの役割そのものが改めて問いなおされているのではないのでしょうか。スーパーコンピュータ、ネットワーク、データベースとなんとなく納得されられてしまうキーワードはありますが、今一度原点に戻ってセンターは何を求められているのか考えて見る必要もありそうです。

原中や物にもつかず鳴く雲雀 (松尾芭蕉)

晴れたら雲雀を探しに歩いてみよう。まだ早いかな。

(T. F)